

「学部学科調べ」「大学調べ」で 進学先の選択肢の幅を広げ、 本当に行きたい大学を選び取る

▶ 桃山学院中学校高校 (大阪・私立)

取材・文／笹原風花

「関西圏には大学が多く、生徒はつい身近なところから選ぼうとします。なかには京都でさえも、通学圏ではないからと選択肢から除外している生徒も。大阪や関西圏に限定的な視野を全国区に広げ、

「関西圏には大学が多く、生徒はつい身近なところから選ぼうとします。なかには京都でさえも、通学圏ではないからと選択肢から除外している生徒も。大阪や関西圏に限定的な視野を全国区に広げ、

身近な関西圏に限定しがちな 進路選択の幅を全国区に広げる

魅力ある大学の存在を知ることが、大学調べの目的です。学部学科調べは、その前段階。どんな学問があるのか、どの学部・学科で何が学べるのかを知ることに加え、調べ方を学ぶ、という意味合いもあります(和田先生)

また、大学や学部、学科について調べることで、知ることを通して、進学への意識や意欲を高めるといった目的もある。「進路選択において大事なものは、絶対にあの大学に入りたいという意志や憧れをもつこと。思いが強ければ、途中で目標を安易に下げず、最後までがんばり抜くことができます。そしてそのためには、幅広い選択肢があることを知ったうえでしっかりと比較・検討し、志望校や志望学部・学科を決めることが有効だと考えています(和田先生)

興味・関心にとらわれず、 多彩な学問領域の存在を知る

1年次の「学部学科調べ」では、教員がランダムに学部・学科を生徒に割り当てる。「自分が関心のある学部・学科や分野については調べるだろうが、それ以外にはなかなか目が向きにくい。生徒の



写真左から、進路指導部長の川田久美子先生、進路指導部(高校2年生担当)の和田圭介先生

進路指導の課題とテーマ

1884年、英国聖公会宣教協会から派遣されたイギリス人宣教師らが、「自由と愛の精神」の建学の精神に基づき、男子の教育のために設けた学校が始まり。2001年には男女共学の国際コースを開設し、現在では中高一貫コースを含めて5つのコースをもつ共学校となっている。服装の自由を認めるなど、自主・自律の生徒指導方針も特徴だ。

進路指導においても、生徒の自主性や意志を尊重してきた。一方、通学圏内に大学が多いこともあり、生徒は地理的に限られた選択肢のなかで進学先を選ぶ傾向があった。加えて、あまり調べることなく志望校や志望学部・学科を決めてしまう、途中で安易に志望校のレベルを下げてしまう、地元の国公立大学を目指していたものの早々に私立大学に切り替えてしまう、などという生徒も少なかつた。また、途中で目標を下げる生徒が出てくると、周囲にも影響を及ぼし、全体的に士気が下がって気持ちが緩んでしまうのも課題だった。

こうしたなか、大学や学部・学科について広く知り、進学先の選択肢を増やすために始めたのが、1年次の「学部学科調べ」と2年次の「大学調べ」だ。10年ほど前から取り組み始め、現在では桃山学院高校の進路指導の要となっている。

○進路状況(2021年3月実績)

大学進学457人、専門学校進学11人、就職1人、その他81人

国公立大学には230名、難関私立大(早慶上智・関関同立)には251名が合格。国公立大学合格率(卒業生数に占める国公立大学合格者の割合)は41.8%と、この5年ほどで大きく伸びている。

○School Data

1884年開校/普通科:S英数コース、英数コース、文理コース(文理クラス・アスリートクラス)、国際コース(クラスA・クラスB)、中高一貫コース/生徒数(高校)1976人(男子1073人・女子903人)

2年次に取り組む「大学調べ」の生徒用資料と生徒の作品例

ダウンロード可

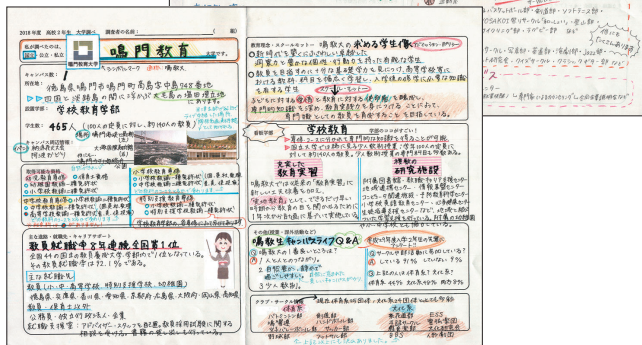
2018年度 高校2年 大学調べ 生徒用マニュアル

【目的】
個人の得意をもち、大学を調べ、クラス、コースで履修を共有し全国の大学を特色ある分野で比較し、自分の進路を決定する。

【目的】
11月8日は、クラスに分かれて資料をします。

【目的】
作品は自分の得意をもち、大学を調べ、クラス、コースで履修を共有し全国の大学を特色ある分野で比較し、自分の進路を決定する。

生徒用資料には「あなたの調べた大学が、将来クラスメートの最終学歴になるかもしれない、という責任を感じて取り組んでください」とあり、毎年、内容・見た目もクオリティの高い作品が並ぶ。



「学部学科調べ」「大学調べ」はLHRで行うため、指導はクラス担任が担う。担任には進路・進学に関する情報に精通する

「各情報共有、保護者とも情報共有し、生徒の希望する進路を実現する」

学べる大学が他にないか探していました。ちょうどそのタイミングで大学調べの発表があり、クラスメイトが発表していたある地方の国公立大学のことを知り、調べてみたらここなら行けそうだといいこと志望先を決めました。これはわかりやすい例ですが、大学調べは未知の大学と出会うチャンスの一つになっています」

ことが求められるが、それを支えるのが進路指導部長である川田久美子先生による情報の発信・共有だ。「進路指導は情報部が大事」と断言する川田先生が進路指導部長に就いたのは3年前。同期に校内ミニコンと教員用クラウドスペースが整備されたこともあり、オンラインでの情報共有が一気に進んだ。

「各種情報を社内メールで共有することに加え、大学から送付された資料など進路や大学入試関係の資料はすべてスキャンしてPDF化し、イントラネット上にアップしています。全教員で共有するほか、学年担任ごとなどの各種スレッド

成果と課題

幅広い大学に生徒の目が向き、進路選択への満足度も向上

10年あまり続けてきた「学部学科調べ」「大学調べ」の取組だが、生徒の進路選択の幅が広がる、進路選択の満足度が上がる、2年次3学期の始まりがスムーズなど、「数字には表れにくいですが、確実に成果が出ている」と和田先生は言う。

「大学調べをきっかけに、いわゆる有名大学以外に目を向けるようになる生徒が毎年少なからずいます。また、本校の国公立大志願者は、以前は志望校を関西圏から選びがちで、手が届かないから私立大学...という選択をしがちでしたが、近年は地方の国公立大学に生徒の目が向くようになりました。いろいろと調べたうえで選ぶことで、自分の進路選択に納得がいき、満足できるといふ生徒も増えているように感じます。また、

があるので、必要に応じてそこに流しています。生徒も全員がデバイスを持っているので、教員は必要に応じてGoogle Classroomで生徒にも情報を共有しています。大事な情報は、情報のやり取りをいかに潤滑にするか。進路指導室に來なくても手元でパッと確認できますし、スレッドごとにとまとめているので欲しい情報に即座にアクセスできます(川田先生)

和田先生も、「担任団で集まって情報を共有するとなると、時間も拘束される。

大学入試における変更点が多いが、必要な情報を必要なタイミングで入手できるのはとてもありがたい」と言う。さらに、保護者への情報発信も積極的に行っている。「生徒に限らず保護者の関西志向も強いので、保護者懇談会などでは国公立大学を中心に全国の大学に関する情報を意識的に発信している」と川田先生、生徒が真に希望する進路を実現するため、教員全体、そして保護者を巻き込んで、進学先選択の意識改革に取り組んでいる。

2年次3学期は受験に向けて動き出す大事な時期ですが、大学調べで自覚が芽生えるのでしょうか、全体的にスイッチが入るのを感じます(和田先生)

一方、今後の課題については、「志望校を検討し始める時期をもう少し前倒したい」と和田先生。「コロナ禍の影響で学校行事が中止や縮小になり、オンラインキャンパスなどにも行けないという状況のなかで、「生徒は受験に向けて気持ち切り替わりにくく、大学生活への希望や具体的なイメージももちにくい」という。これまでも卒業生による講話などを開いてきたが、そうした取組をさらに強化し、「早めに進路について考えられるような環境をつくりたい」という。さらに、大学入試の変化に伴い、論理的思考力や表現力の育成に学校を挙げて取り組んでおり、今後こうした取組もさらに進めていく予定だ。